

■水辺の動植物

秩父盆地を横切って流れる荒川やその支流は、動植物にとって好適な水辺環境となっています。川の複雑な流れはさまざまな瀬や淵となってウグイやオイカワ、カジカなどが生息し、斜面にはケヤキの大木が生育します。水田や池沼には、サンショウウオやカエルのなかま、アカハライモリやタニシのなかまなど、季節の変化とともに様々な生きものをみることができます。

■岩畳の動植物

秩父中・古生層が地下深部の高圧により結晶片岩（変成岩）となり、長い時間をかけて隆起し、荒川に削り出されてできたのが岩畳です。日本を代表する岩石段丘であり、多くの著名な地質学者が訪れています。数年おきに洪水の影響を受ける結晶片岩の隙間には、全国でも自生地の少ないユキヤナギが生育し、タヌキランなどの希少種の自生地としても重要な場所です。四十八沼の止水環境と荒川の流水環境を利用して、トンボの種類も非常に豊富です。

■石灰岩地の動植物・秩父ゆかりの動植物

武甲山・二子山をはじめ秩父に点々と分布する石灰岩地には、他の岩石の山ではみられない特殊な植物が生えています。チチブイワザクラやキバナコウリンカなどは、秩父で発見・採集された標本をもとに名前がつけられました。絶滅の危機に瀕する種も多く、今回はその一部を細かい毛などまで再現した精巧なレプリカで展示します。

動物では、秩父の名のつく動物にはチチブヒシバツタやチチブコウモリなどがいます。

■さわれる剥製・毛皮コーナー

たくさんの動物の剥製と毛皮を、実際にさわって肌で感じていただくことができるコーナーです。鳥の嘴の形が種類によって違うのはなぜか、なぜアナグマの爪が鋭いのか、体毛の夏毛と冬毛はどのように違うのかなど、それぞれの動物の暮らしを想像しながら、体の仕組みや毛皮の手触りをじっくり観察してみてください。



チチブイワザクラ（サクラソウ科）※写真はレプリカ  
武甲山特産の夏緑性多年生草本。標高650m以上の北向きの石灰岩壁の割れ目に生育する。葉柄や花柄の赤い毛が特徴。花は径2～3.5cmほどで、5～6月に開花する。



ミヤマスカシユリ（ユリ科）※写真はレプリカ  
崖や岩場に垂れ下がるように生育する、夏緑性多年生草本。花は7月、径5～10cmで上向きに咲く。武甲山で発見され、学名の一部にbukosanenseとつけられている。茨城県にも分布。



チチブリンドウ（リンドウ科）※写真はレプリカ  
亜高山の岩礫地に生える一年草・越年草。高さは10～15cmほどで、花は9～10月。国内では秩父と南アルプスの一部などに分布。1952年に秩父の石灰岩地で発見されたことにより名付けられた。

（すだ だいき・学芸員）